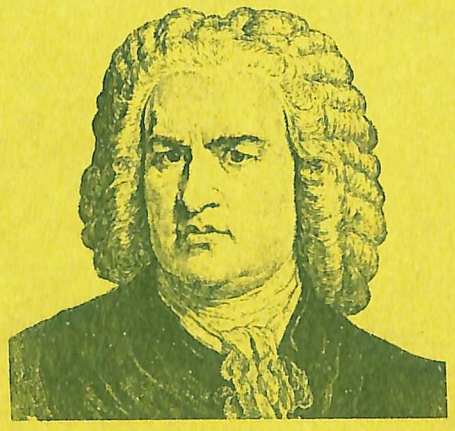
コンチェルティーノディ キョート

第33回演奏会



1991年 11月 4 日(月) PM 7時

京都府立文化芸術会館

主催 / 才能教育研究会京都支部

コンチェルティーノ・ディ・キョウト

指揮　新井　覚

第1ヴァイオリン	畑　都加・畑　亜季・大塚　真帆・馬江　尚子 久保田昌平・山形　孝志・高木　泉
第2ヴァイオリン	大下美知代・田中めぐみ・大塚　真衣・井上　史 老川　幸夫・佐藤　丈
ヴィオラ	江村　孝哉・松村裕美子・仲佐　悦子
チェロ	森田　健二・田村　忠司・豊田　雅朝・壁瀬　雅彦
コントラバス	北中　敏仁
オーボエ	畠口　潤・芝田昌樹子
ホルン	宮西　友美・足立　紀子

－ 演奏者紹介 －

森　田　健　二（チェロ）

1963年京都に生まれる。4才より才能教育研究会京都支部でチェロを始め故野村武二氏，13才より壁瀬雅彦氏に師事。1977年（第19回演奏会）より、コンチェルティーノ・ディ・キョウトに参加、1984年（第25回演奏会）より現在に至るまで主席奏者を務める。この間，ピアノトリオの演奏会を開き，1986年，沖縄ミュージック・キャンプに参加。その後、才能教育指導者となるべく才能教育音楽学校（松本市）に入学、才能教育法を鈴木鎮一氏に学び，才能教育チェロ科指導者となり現在に至る。アンジュ弦楽四重奏団を主宰。

コンチェルティーノ・ディ・キョウト

コンチェルティーノ・ディ・キョウトは，才能教育研究会のバイオリン科指導者、新井覚とチェロ科指導者，故野村武二によって，井手章夫氏を指揮者に迎えて1958年に京都支部合奏科Ａクラスとして組織された弦楽合奏団です。

以来、井手章夫氏、高橋利夫氏、堤俊作氏らの指揮のもとに演奏活動を続け、［フルート］吉田雅夫，ルイ・モイーズ，高橋利夫、金昌国［オーボエ］丸山盛三［バイオリン］フェリックス・アーヨ［ビオラ］河野昌彦［チェロ］斉田出、林峰男、モーリス・ジャンドロン［ファゴット］中西祥之［ピアノ］辛島輝治，田中修二等々の演奏家とも共演してきました。

プログラム

前　奏　曲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・バッハ～ストコフスキー

チェロ協奏曲　第２番　ニ長調・・・・・・・・・ハイドン

チェロ独奏　森田健二

アレグロ・モデラート／アダージョ／アレグロ

休　　憩

ディヴェルティメント・・・・・・・・・・・・・・モーツァルト

アレグロ／アンダンテ・グラツィオーソ　コン　ヴァリアツィオーニ／メヌエット／アダージョ／メヌエット／アンダンテーアレグロ・モルト

今夕はモーツァルトを中心として古典派の３人の作曲家の作品を演奏いたします。最初に演奏いたします，バッハのプレリュードは，平均率クラヴィア曲集第１集の24番に当たるプレリュードを弦楽合奏用に編曲したものです。編曲をしたストコフスキーは，ポーランド系イギリス人で長年アメリカにおいて活躍した指揮者で，オルガニストでもあり，多くのバッハの作品をオーケストラのための華麗な編曲に残しました。そのさっそうとした指揮ぶりは，ディズニー映画の「ファンタジア」やディアナ・ダービンの主演した「オーケストラの少女」等の作品で映画ファンにはおなじみだと思います。ピツィカートで奏される低音にのった上声２部の織りなす美しい神秘的な音楽で，ＦＭ放送の愛好者の方は，昔のＮＨＫ・ＦＭの「名演奏家の時間」を思いだされる事でしょう。

２曲目はハイドンのチェロ協奏曲第２番二長調です。この作品は作曲者51才の1783年に当時エステルハージ家の楽団で働いていたチェリスト，アントン・クラフトの為に書いたもので、オーケストラはオーボエとホルンを各２本含む比較的小規模な編成をとっています。しかし今夕のように現在一般に演奏されるものはハイドンの素朴なオリジナルを19世紀の趣味に合わせて補強拡大したものです。

第１楽章アレグロ・モデラート，チェロの巨匠パブロ・カザルスはこの楽章にオペラの役割をふり当て，「こちらの低い音域ではチェロはバッソ・カンタンテの様に，あちらの高い音域ではプリマドンナの優美さで，きわめて高い音は魅惑的なアラベスクを形作り，いつもどことなく愛らしく，いつも歌って・・」

第２楽章アダージョ聞き手の心をなごませる親しげな表情に満ちた旋律がたっぷりと歌われます。

第３楽章ロンド・アレグロ，遅くなったり，速すぎる演奏になりがちなこの楽章にカザルスは「重くならずに，陽気に，６拍子で－２拍子ではなく！」

第１楽章で使われているソナタ形式，第３楽章のロンド形式には，古典派が熟しつつある様相が浮彫りにされていて興味をひきますが，チェロ特有の音色を生かした朗々たる旋律を駆使しながら，雅趣に溢れた世界を繰り広げているのはこの時代の作品では極めて珍しいと言えるでしょう。そのために、ハイドンの作品ではなく，上記のクラフトの作品という説もありましたが，1954年にハイドンの自筆譜が発見されるに至って偽作説は退けられました。しかし，その名人芸の故にクラフトとハイドンの間に，後のダヴィットとメンデルスゾーンやヨアヒムとブラームスの関係のような，演奏者と作曲者の共同作業という考えも残っています。

最後に演奏いたします曲はモーツァルトのディヴェルティメント第15番です。この作品は作曲者21才の1777年に，その前年に作曲された第10番のヘ長調の作品と同じくロドロン伯爵婦人のために作曲されたもので，第１ヴァイオリンがコンチェルタンテに扱われ，全体の書法は第10番と比べて一段と念入りになっています。楽器編成は２つのホルンと弦楽で，６つの楽章からできています。

アインシュタインは「かつて音楽の形式をとって純粋なもの，明朗なもの，このうえなく人を幸福にするもの，もっとも完成されたものに属する」と述べています。

第１楽章アレグロはソナタ形式をとり，軽やかな流動感の中に魅力的な表情がたたえられた楽章が形作られています。

第２楽章アンダンテ・グラツィオーソはドイツ民謡「さあ，早く，私はハンスだ，心配ない」の主題による６つの変奏曲です。

第３楽章メヌエット

第４楽章はホルンが抜けて，第２ヴァイオリンとヴィオラの織りなすアラベスクの上に第１ヴァイオリンが，えも言われぬ天上の音楽を思わせる美しい旋律を奏でます。

第５楽章メヌエット

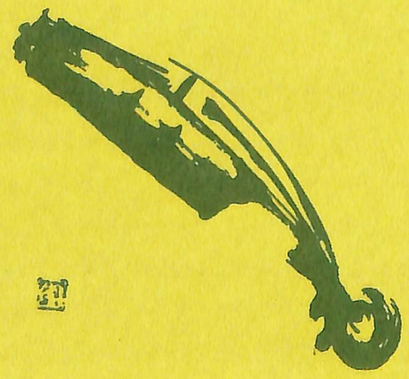
第６楽章は第一ヴァイオリンの演奏するオペラチックなレシタティーヴォ風のアンダンテの序奏に続くロンドン形式のアレグロ・モルトで，モーツァルトの喜悦に満ち溢れています。ロンド主題は南ドイツ民謡「百姓娘が猫を失くした」によっています。

歴史を鳴らす

Pygmalius

Violin. Viola. Cello. Bass.

文京楽器製造株式会社 〒112 東京都文京区小石川 2-1-11 電話 03-3811-2084代表



Violin
Bow
Strings

マツヲ弦楽社

〒602 京都市上京区河原町通丸太町下ル東側
マツヲビル4F ☎075-251-1774

オーディオ＆ビデオ

アサヒムセン

京都市中京区河原町三条上ル東
● 1F 家電TEL (231)4475 ● 2F オーディオTEL (221)2334
● 1F サービスTEL (221)4212 ● FAX (223)1940